

# View from Down Under

文・ハイランド真理子

写真・ハイランド・サラブレッド・サービス

## 現地で見た、ダーレーのインガム買収劇

### 驚きのニュース

3月24日、オーストラリアの競馬界・生産界に衝撃が走った。ダーレーグループが、ボブ・インガム氏所有のインガムブラッドストックを買収したというニュースが発表されたからである。インガム氏は、兄の故・ジャック・インガム氏とともに、オーストラリアで最大の養鶏、すなわちチキンビジネスを経営しており、「チキンキング」と呼ばれている。1985年にハンターバレーのデンマンという場所にウッドランズスタッドを創立して以来、キャンベラ近くのクタマンドラにも牧場を持ち、更にシドニー郊外に育成場、また、シドニーのワリックファーム競馬場とメルボルンのプレミントン競馬場に、大規模な厩舎を持っている。所有馬の数はおよそ1100頭（うち400頭が競走馬）。230人の従業員を抱えるオーストラリア最大のオーナーブリーダーである。ボブ・インガム氏は、今回の売却の件に関し、マスコミのインタビューに答えて「ダーレーからオファーがあって考えたことです。しかし、それがあまりに魅力的だったので、受けることにしました」と言った。現在、外国人投資調査委員会の承認を得ていないので、売却が正式に決まったわけではないが、その取引額はおよそ5億ドル、日本円で約460億円になると推測されている。

### O.テイト氏に聞く

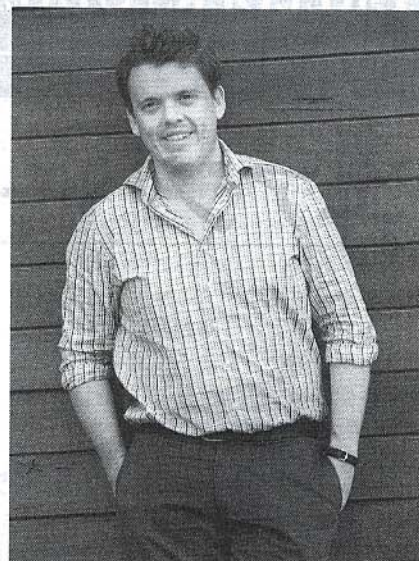
そのオファーを出した、ダーレー・オーストラリアのジェネラルマネージャーであるオリバー・テイト氏に話を聞いてみた。なぜ、ダーレーは、インガムブラッドストックに興味を持ったのか、という質問に、「モハメド殿下は、オーストラリアのサラブレッド産業に関わっていくことをこれまでも大変エンジョイしていました。したがって、今回のインガムグループの買収によって、更に、オーストラリアの競馬スポーツに関わっていくことができると思ったようです」と語る。買収について、オーストラリアの生産者はどう思っているのかという質問には

「生産者や関係者のリアクションは大変ポジティブなものです。皆、オーストラリアの生産界や競馬界に対する高い評価を得られたと思っているようです」と答えている。

### 買収劇への反応

アローフィールド牧場のオーナーで、オーストラリアのサラブレッド生産界の重鎮であるジョン・マサラ氏は、今回のテイクオーバー（経営権取得）に関してこのように語っている。「実にファンタスティックなことです。これは、オーストラリアが、世界のサラブレッド生産の重要なプレーヤーになったという証です」と手放して喜んでいる。売却したボブ・インガム氏も「ダーレーの傘下で、自分たちがこれまで築き上げてきたものが、よりグローバルになってくると思う」と語る。オーストラリアの生産者のほとんどは一般人で、普通のビジネス経験がある。したがって、会社の売買やM&Aや、テイクオーバーには慣れているのだ。もっとも、先のテイト氏によれば「現在までのところは、あくまでもオーストラリアのオペレーションです」と語った。したがってシャトルスタリオンの動きなどについても「未定」であるという。今後のオーストラリア馬の海外遠征などは、モハメド殿下の意向によるようだ。

ところで、今回の売却が決まれば、ビジネス用語でいうところのターンキーオペレーションになる。つまり、社員も資産も、そのままダーレーが受け継ぐことになっている。変わるのは、勝負服だけ。昨年末、専属調教師の役職を引き継いだピーター・スノーデン師もそのままだ。スノーデン氏は「売却の発表2週間前に話を聞いて、飛び上がるほど驚きました。しかし、ダーレーグループのために力を尽くすことに全く問題はない」と語ったと伝えられる。インガム氏は、引き続き馬を買い、自分の勝負服で走らせるという。オーストラリアのマスコミがこぞって、今回の売却劇に拍手を送っている中で、あるマスコミ人が「殿下のようにお金が有り余り過ぎると、競馬はソウルレ



ダーレー・オーストラリアのジェネラルマネージャー、オリバー・テイト氏

ス（魂がなくなる）になり、ナンバーズゲーム（数字だけの問題）になる」と、馬鹿なことを書いた。しかし、これまで、モハメド殿下がしてきたことがソウルレスだろうか。ソウルがなければ、各国にここまでの投資をして、更にワールドカップまで実施しただろうか。

### 秋競馬の勝負服はダーレーブルー？

ダーレー・オーストラリアの責任者で、ダーレー・ジャパンもその責任範囲に入れているオリバー・テイト氏は、まだ33歳。ハンターバレーに3世代住んでいる有名なオーナーブリーダーの息子である。彼の父親と叔母が持つタイザノットの活躍は記憶に新しい。また、7歳の牝馬で歴史上初めてGIのマニカトSを勝ったスピニングヒルも、彼のファミリーの所有だ。テイト氏には、オーストラリアの生産者の血が脈々と流れている。最後に、テイト氏はオーストラリアと日本の競馬の関係について「これまでもオーストラリアと日本の競馬やサラブレッド生産は近い関係にありました。そして、今回のことがきっかけで、その関係が益々深くなることを望みます」と語った。

ダーレーグループのインガムブラッドストック買収は、前述のとおり、現在、外国人投資調査委員会の承認を待っている段階である。もし、承認が出れば、5月3日、ロイヤルランドウィック競馬場で開催されるオータムレーシングカーニバルでは、シドニーC、クインエリザベスII世S、シャンペンSで、それぞれ、マスケット（マカイビーディーヴァの弟）、フォレンジックス（ゴールデンリッパーSの勝ち馬）、そしてカマリーラ（サイアーズプロデュースSの勝ち馬）が、ライトブルーの勝負服で出走するかも知れない。